

「『3・11だから』ではなく『15年の節目だから』でもなく、 僕は僕ができることを」

260311

東日本大震災から15回目の「3・11」を迎えるにあたって、当時は楽天球団、現巨人・田中将大（まさひろ）投手の言葉を紹介します。

「当時、被災地の惨状を目の当たりにし、『自分は野球をしていいのだろうか』という葛藤もありました。その中で、試合を見てもらった被災者の方々に『元気をもらいました、ありがとう』と言葉をかけていただいたことが、逆に自分の力になりました」

「今でも僕は見てくださる方々に『元気や勇気を与えたい』とは言えませんが、プロ野球選手としてベストを尽くすことで、見ている方々に何かを受け取ってもらえるのであれば、それはとてもありがたいことだと感じています。今季もまず、チームの勝利のために全力で腕を振ります」

「昨年のオフに宮城県内の被災地で野球教室や避難訓練に参加した際、震災を経験していない子供たちが増えていることを実感しました。起きてほしくないけれど今後も起きる可能性がある自然災害への備えについて、考えるきっかけにしてもらえるような活動を続けていくつもりです。それは東北に育ててもらった自分の使命でもあると考えているからです」

「『3・11だから』ではなく『15年の節目だから』でもなく、これからも僕は僕がすべきこと、できることを考え、行動していきたいと思っています」

スポーツ報知 より

「元気や勇気」は与えたいと願うものではなく、相手に自然に受け取ってもらうという考え方に共感します。また、「東北に育ててもらった使命」からは、これからも変わることなく、「育ててもらったふるさと東北」への恩返し、できることをしたいという思いが強烈に伝わってきました。